

好きこそものの上手なれ

回胴倒錯者

— PACHISLO FREAK —

大阪

三重県のスロットが落ち着きだした頃、私は再度大阪へ戻っていた。玉ボンDXを捜し求めに来たのだが、この大都会でも意外と少なく私の住んでいた境界では全く導入されていなかった。そしてこういう困った状況に登場してくれるのが知識大王Sくんである。さっそく電話をする。

私「久しぶり。お、騒がしいな、出てんの？」

S「ほちほち。今は梅田のD店でディスクアップ打てるんやけど、良さそうなたがもう一台放置されてるよ、来る？」

私「ディスクアップ？まあいいや、行くわ」

いつもならバイクでひとつ走りなのだが、たまには電車で向かってみる。大阪といっても平日の昼間の電車内にはそれほどお客はいない。梅田駅に到着すると、相変わらずの人ゴミ。初めて来たときは「何か祭りでもあるのか？」そう思ったほどである。皆がそれぞれ思いの方向へ歩いていく。田舎では考えられないスピードで歩いているが、こんな人ゴミの中でも不思議と誰ともぶつからない。それはまるで小さな水族館で泳ぐ魚たちだ。彼らも、そして魚たちも本能の中にもぶつからない何かと、暗黙の了解である交通ルールがあるのかもしれない。田舎という大草原で育った私には、未だにそのルールは理解されておらず、さらに本能も持ち合わせていない。邪魔だ邪魔だという目で見られながら隅のほうへ追いやられていく度に「田舎がいいや」そう思っていた。

そんなことを考えながら地下街、商店街を通り抜けていくとその商店街の片隅にD店があった。スロットコーナーは半地下となっており、2階がパチンココーナーとなっている。中に入ってみると商店街の人通りとは裏腹に比較的閑散としていた。壁側に並べられた6台のディスクアップの中央あたりでS君は黙々とボタンを押していた。

私「出てるやん。」

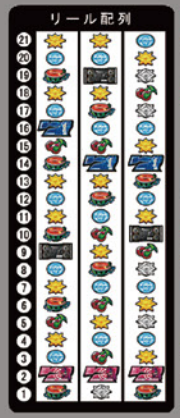
S「投資はかなり掛かっているけどね。一番カドの台がいい感じやったよ。」

私「この機種は初めてやけど、やってみるわ」

少し言葉を交わし、早速着席し遊技してみる。親切なS君は自分の遊技を中断し、私の隣に打ち方の説明をしにやってきた。ここで得意の知識大王ぶりが炸裂し、実に楽しそうに細かいところまで説明された覚えがあるが、書くのが面倒になるくらいなので、今回は省略して書かせてもらう。「ディスクアップ(サミー)は業界初のAR(ATとRTを合わせたもの)搭載マシンで、ビッグ中のビタ押し(ハズシ)を駆使すると、獲得枚数も激増するなど、技術介入マシンでもある。またレギュラーボーナス確率が約2600分の1という激低確率なため、リーチ目が出るとほとんどBIGであるというお得感もあった。もちろんそれだんのメリットも無いレギュラーボーナスだった時は誰もため息をつくのは間違いない。ルール配列もこれまでにない斬新なものであったが、それはなかなかよく考えられたものであり、違和感無く、そして快適に打つことができた。

このディスクアップという機種は実はあのサミー系の機種を次々と鳥閉鎖に追いや

ディスクアップ(サミー)2000年発売。5号機で復活。気持ちのいいビタ押し効果音やエイリヤんは健在。RTの引きで出玉が左右され易いのも先代譲り。



交代

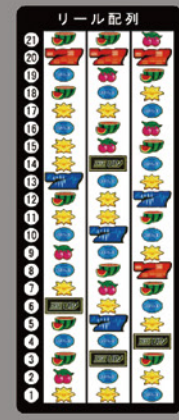
あるときS君と食事をしていて。隣の若者たちからスロットの話題が聞こえてくる。「今日、獣王で万枚出でさ、サブチャンの連チャンが……(略)」

あるときWさんと食事をしていて。近くの若者たちからスロットの話題が聞こえてくる。「2日連続で万枚出で……(略)」

あるときN君と食事をしていて。向こうでスロット話をしている若者たちの言葉に耳を傾けてみる。「すこいレアな演出がガセつてさ……(略)」

私たちとは会話の質が違う。同じスロットの話なのにぜんぜん違う。厳しいようだが、スロットを分かっている話が多すぎる。演出がどうだとか、出玉はどうだとか、そんなことはどうでも良い。もともとルール配列や制御を凝視してみてもどうか？ 私たちは口を揃えてこういってしまう。しかしそれが違う。彼らは言う「制御を熟知

ディスクアップ(サミー)2000年発売。サミーのプレミアキャラ「エイリヤん」はこの機種が初代でプレミアAR当選時に出現した。



つた、超強力攻略法「フラグコピー打法」の元祖可能な機種なのだ。ディスクアップから筐体が一新され、この筐体の機種ではどんな機種でもフラグコピーが可能だったのだ。もちろんこの時期にはその攻略法が世間に全く出回っていなかったため騒がれなかったが、知っている人がいたとしたらかなりの利益を生んだに違いない。

話を元に戻して実践結果を語ろう。隣のS君にこと細かく説明を受けながら遊技を開始する。その演出はどうだとか、1コマずつたらどうだとか、はつきり言っていたウールサイ。しかしそれも親切ゆえのことなので仕方が無い。間もなくするとS君が感嘆の声をしなやかに感懐している。

S「おお！来たな、美しい」

私「え？何が？」

S「いや、左リールがその出目で、演出が……(以下略)」

制御や配列はどうでも良くなってしまっのか？心どいものは液晶ばかり見て、全くリールを見る必要がない機種も登場した。私が愛した時代や機種は風前の灯となり、まさに消えようとしていた。

◆次回予告◆

とうとうA氏が引退を決意する！次回「引退」そして「その後」をうご期待！

スロット店というのも、出会いの場。数々の人と出会い、多くの友人ができました。そしていつの日かスロットからはなれ、どちらからともなく連絡が途絶える。それでも昔を語れば盛り上がることは間違いありません。スロットがある限り、きこことどこかで打っているでしょう。たまにはこういう風に集まって夜通し話すのもいい酒の肴になるものです。

私も早速、S君にでも連絡してみよう。かれこれ3年以上も連絡してないけど、出てくれるかな？

トウルル、トウルル……

S「もしも。」

私「おお！S君、久しぶり！」

S「久しぶりって、アンタ、何時だとおもってるの？」

私「朝4時前」

S「……で、なに？」

私「原稿の文字数が足りないのでネタ作りに電話しただけ」

ツーツー……

どうやらボーナスが確定したらしい。BIG絵柄を狙うと見事にボーナスが始まった。なかなか軽快でノリノリな音楽が鮮烈に頭に残っている。BIG中に中リールの「リブ星」をビタ押しすると、気持ちのいい効果音と共にリールが消灯し、3択だった15枚役が2択になる。この効果音は少し前に発売されたCT機「ジャン2」で使用され、受けが良かったから、ディスクアップ以降のサミーの機種で多数用いられている。S君が自分の席に戻ってからも着々とボーナスに当選し、さらにはARとも絡み合い、瞬く間に5千枚ほどのメダルを獲得していた。S君も同じくらいのメダルを獲得していたが、持ち前のセコイ性格が発揮され、自分の方が投資金額が多いから勝ちが少ないやら、やっぱりカド台のほうに座っておけば良かったやら、毎度のことながらぶつくさ言っていた。そして私も毎度のことながら「はいはい、焼肉おこるわ。おかげさまで勝てたから。」半ば呆れてこう言ったのだった。

A氏プロフィール

三重県出身。三重の高校を卒業後、進学のため大阪へ。学業よりもパチスロに専念してしまいお決まりコースの大学中退。中退後3年間はパチスロで生計を立てる。その後サラリーマンになるも収入はパチスロで。結婚のため三重に戻りホール店員となる。現在は知識と経験を生かし某店で設定師として手腕を振るっている。目押しレベルはスイカの種まで直視できるほどの異常っぷり。



……余談ではありますが。

最近、ある店の店長さんと、スロット大好きな友人H君と3人で会話する機会がありました。スロットで今までに一番記憶に残っている出来事は？とか、レアな演出自慢、今までの機種で設定6を打つたら？など、いろいろな話題を添えて話っていました。ちなみに私の番記憶に残っていることは「玉ボンDXで1ゲーム連チャンでREG3連」設定6でも500分の1くらいなので確率的には1億2500万分の1です。どんなレア演出よりもすごいような気がします。そして興味深かったのが、6を打つなら？という問いでした。誰もが割の高い「チ4X」を言うと思っていました。高割の機種というか、純粹に自分が打つて楽しい機種を選んでいました。

皆がそれぞれ、思い思いにスロットを語り、お互いが談笑する。場所は真つ暗闇の寒空の下でしたが、ヘッドライトの明かりでたまに照らされる顔をふとみると、それぞれが心地よい笑顔で話しているのが見えました。